

2021年(令和3年)ズワイガニ漁期前の資源状況

○漁期前の推定資源尾数(鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖)

松葉がに…前年並み～前年を下回る・平年(直近3カ年平均)を下回る。
若松葉…前年・平年を下回る。
親がに(雌)…前年・平年を下回る。

【漁期前の資源状況の根拠となった情報】

試験船「第一鳥取丸」による調査結果：2021年10月1日～10月26日にかけて、山陰沖の水深184m～430mの海域において、合計28の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました(図1)。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源量(単位=万個体)は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの推定資源量(単位=万個体)

区分	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比	平年: 2018-20平均	平年比
松葉がに(甲幅10.5cm以上)	59.3	51.8	46.5	47.0	101%	52.5	89%
若松葉(甲幅10.5cm以上)	478.4	290.9	314.7	172.9	55%	361.3	48%
親がに(くろこ)	222.4	142.3	176.7	128.6	73%	180.4	71%

※くろこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

松葉がに：隠岐北西沖、出雲沖でやや減少したものの、鳥取沖ではやや増加したため、推定資源量は前年比101%、平年比89%となりました(表1、図2左)。2019年の調査では、甲幅10.5～12cmの小～中型個体が主体でしたが、2021年の調査では、甲幅10.5～12cm(21.6万個体)の個体と甲幅12cm以上の大型個体(25.3万個体)の割合はほぼ同程度となり、2020年調査のサイズ組成と類似していました(図3、4)。

若松葉：出雲沖、隠岐北西沖、鳥取沖のいずれでも減少し、前年比55%、平年比48%となりました(表1、図2中央)。海域別では、例年通り、出雲沖での分布量が多く、全体の6割を占めました。サイズは前年同様、甲幅10.5～12cmの小～中型個体主体でした。甲幅12cm以上の大型個体は、前年(127.1万個体)に比べて、大幅に減少(59.0万個体)する結果となりました(図3、4)。

親がに：出雲沖で増加したものの、鳥取沖、隠岐北西沖で減少したため、推定資源量は前年比73%、平年比71%となりました(表1、図2右)。サイズは前年同様に甲幅7～8cmの小～中型個体が主体となりました(図3)。

【参考情報】

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移：本県のズワイガニ漁獲量は2004年に1,587トまで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています(図5)。2020年漁期の漁獲量は松葉がに363ト、若松葉42ト、親がに326ト、合計731トで、前年(805ト)及び平年(843ト)を下回りました。
- (2) 水産研究・教育機構調査(調査月：5-6月)：(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水産資源研究所)は、日本海A海域(富山県以西)における2021年漁期当初のズワイガニ資源量について、カタガニ(松葉がに)、ミズガニ(若松葉)、メスガニ(親がに)ともに、前年を下回ると推定しています。(図6)
- (3) 大型クラゲ：傘径30～90cmの大型クラゲが2021年調査は多いところで45個体/1

網の入網がありました（平均 10 個体/1 曳網）。隠岐北方沖や出雲沖に比べると、鳥取沖がやや多い傾向がありました。大型クラゲの多い海域では操業を避けるなど、ご注意ください。

今後の資源状況

水産資源研究所による資源評価調査（5-6 月）では、日本海 A 海域（富山県以西）におけるズワイガニ資源量は、2021 年漁期は全ての銘柄で減少すると推定しています（図 6）。このため、資源の減少を食い止めるための更なる資源管理に努める必要があります。

そのため、第一鳥取丸の試験操業から漁獲対象のズワイガニの入網量が少なく、オスガニおよびメスガニの小型個体が多く採集された地点（図 7 の赤丸）では操業を控えるなど、小型のカニの保護に努めてください。また、11 月の操業の工夫等により混獲死亡を減らすことも重要になります。

ホームページ 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。

URL : <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1257930/kani2021.pdf>

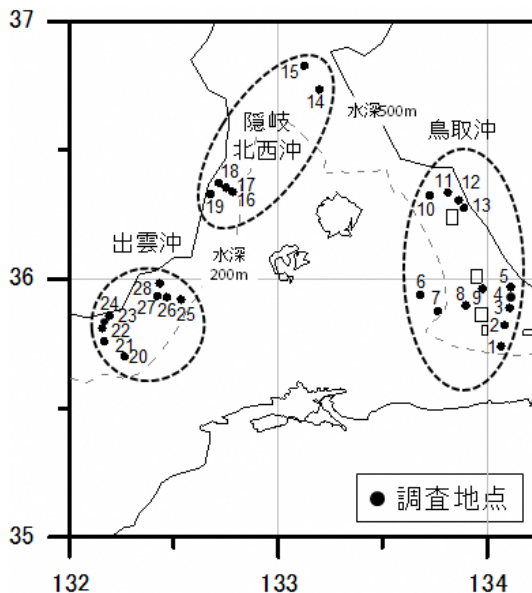


図 1 試験操業位置

その他

2015 年漁期から「とっとり松葉がに」のうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売を開始しました。

（五輝星の基準）

大きさ	甲幅 13.5cm 以上
形状	脚が全てそろっているもの
重さ	1.2kg 以上
色合い	鮮やかな色合い
身入り	身が詰まっていること

2020 年漁期は約 63.9 万枚水揚げされた松葉がにの中から、103 枚（2019 年漁期 117 枚）が五輝星（平均 4.6 万円/枚）に選定されました。本調査結果から大型の松葉がに（甲幅 13.5cm 以上）の資源量は前年並み～前年を下回ったことから、前漁期よりも五輝星が市場に並ぶ数はやや少ない可能性があります。今漁期は、五輝星の希少価値が一段と高くなる見込みです。

図2 年別海域別の資源個体数 (2016-2021年)

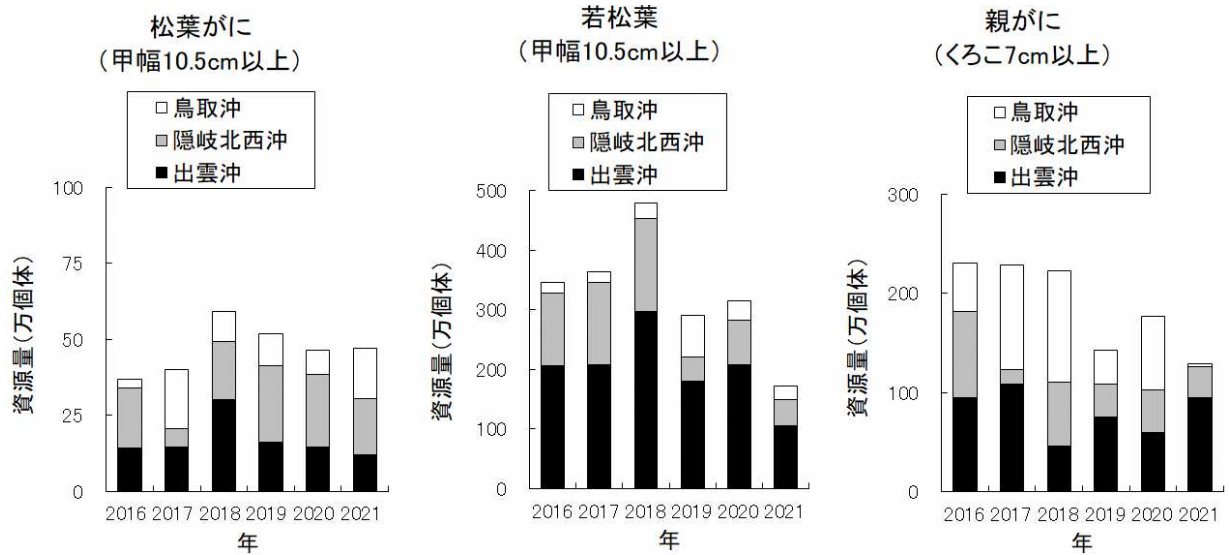


図3 調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2019-2021年)

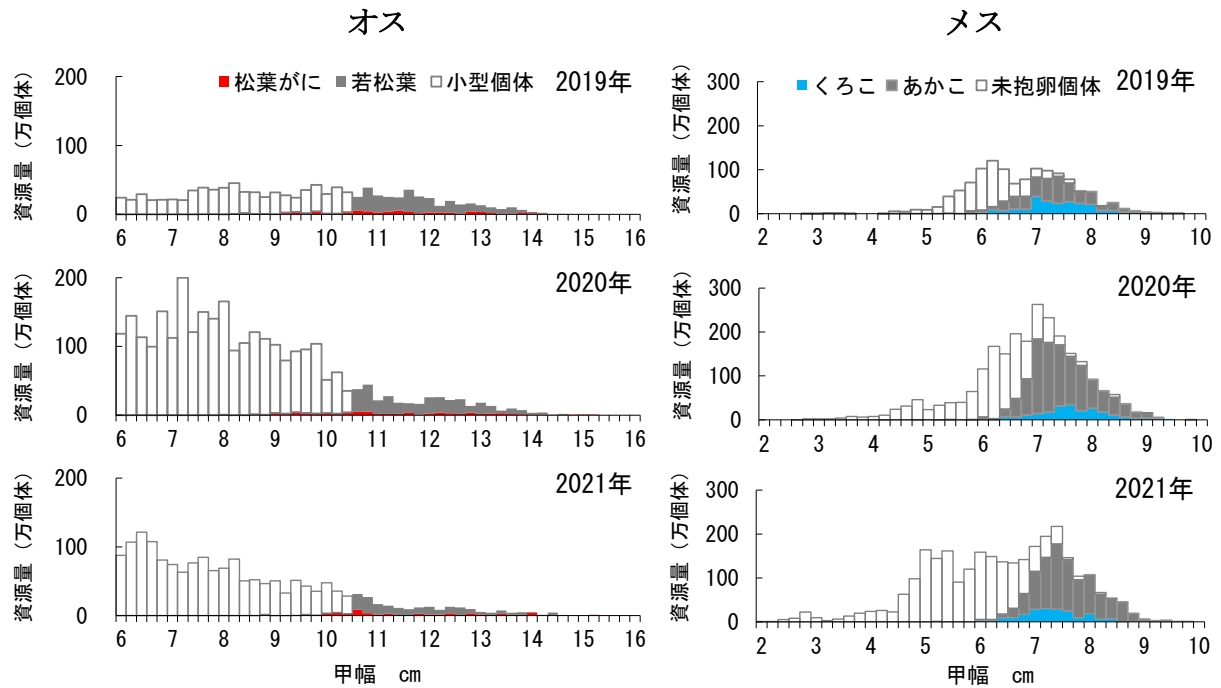


図4 調査海域全域における漁獲対象サイズ (甲幅 10.5cm 以上) の雄ズワイガニの甲幅組成の比較 (2019~2021年)

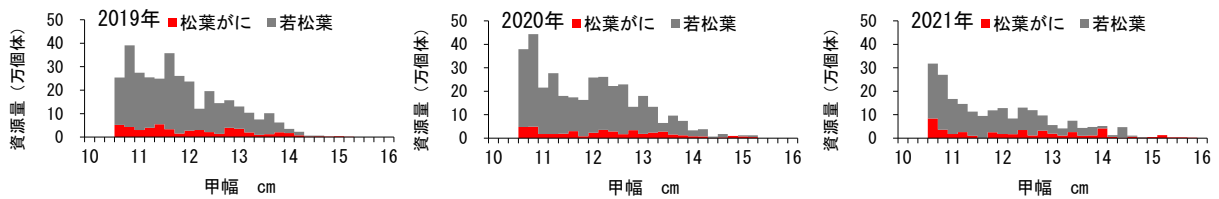


図5 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年：11月6日～翌年3月20日）

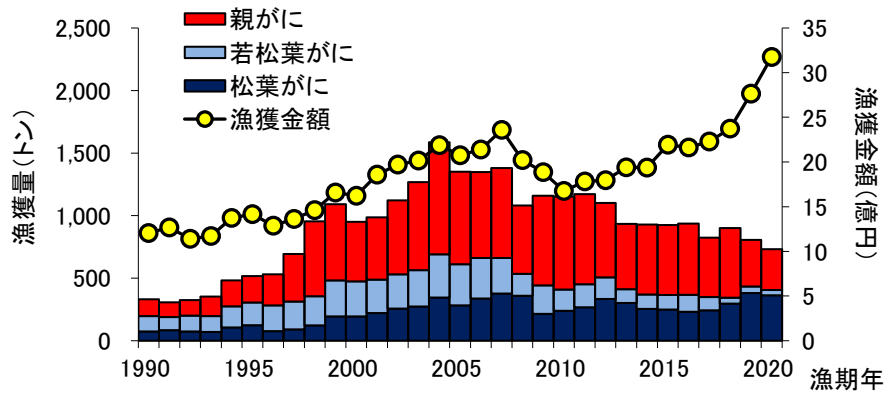


図6 A海域（富山県以西）におけるズワイガニの推定資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 作成資料

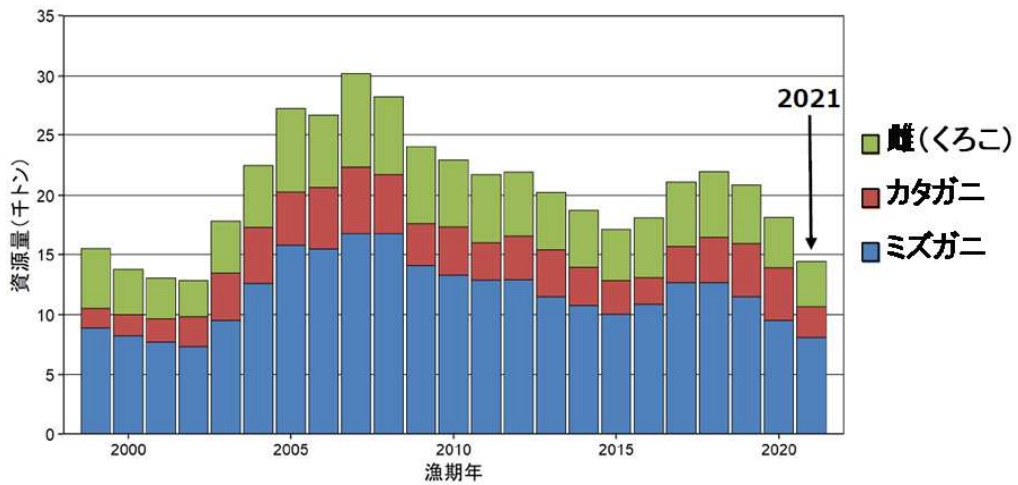


図7 試験操業で漁獲対象のズワイガニの入網量が少なく、オスとメスの小型個体などが多く採集された調査地点

